

## 第2回 全国漁業士実践活動研究集会報告

### 1. 目的

本研究集会は、「全国漁業士実践活動推進事業」(水産庁補助事業)の一環として、全国の漁業士を対象に漁業の振興等に関する研修・交流を行なうことにより今後の漁業士活動の推進に資することを目的として、全漁連が主催するものである。

### 2. 研究集会参加者

西日本ブロック(鳥取～沖縄) 合計145名

### 3. 沖縄からの出席者

青年漁業士 浜川幸治(伊良部町漁協)  
〃 与那嶺強(沖縄市漁協)  
〃 諸見仁康(伊平屋村漁協)  
〃 新垣和信(伊江漁協)  
〃 比嘉康雅(八重山漁協)  
事務局 瀬底正武(専門技術員)

### 4. 期日・場所

平成2年11月29日～30日 指宿市「白水館」

### 5. 研究集会内容

#### 第1部基調講演

「量販店から見るこれからの水産物流通」

㈱西友フーズ水産部商品部長 鈴木莞爾

西友フーズの鈴木部長は、水産物の加工、ハム・ソーセージ類の加工販売に加え、青果、精肉も事業内容として盛り込み、本社以外の全国の西友、西武百貨店、221店の各営業所に出店、特に水産物の加工の立場から品揃売り方の改善が最大のポイントであると指摘。活魚(ヒラメ、ハタ、トラフグ)についても冬眠させる方法で活魚販売を行なっているが売り場として前向きに取り組めない状況にあるという。

「栽培漁業の問題点と飼付け管理の提案」

愛媛県宇和島地方局 水産課長 佐野隆三

宇和島における飼付け漁業の実践について佐野氏は、漁場管理の面で若干問題があったとしながら、飼付けの成立条件として次のように列挙された。

- (1) 地形、潮流 (2) 周辺に養殖漁場が多く形成されている。そのため残餌が多く、餌場となっている等の条件が宇和島では形成されていると指摘。さらに、シマアジは水温が14℃以下になると、外洋に出ると言われているが実際には、宇和島で冬を越した。宇和島での飼付け管理の成果は餌まきプラス漁場造りを行なうことにより漁場管理の効果が得られた実践例である。

## 第2部 全体討議（パネルディスカッション）

テーマ 「国際化の進展と沿岸漁業 一付加価値向上にむけて一」

コーディネーター 「魚価安定基金 常務理事 赤井 雄次」

赤井常務をコーディネーターに、4名（岡部浩一・青年漁業士・長崎県、山本芳明・指導漁業士・山口県、馬場教治・青年漁業士・鹿児島県、永田辰夫・指導農業士・鹿児島県）のパネラーによる紹介と報告が行われたが、全体討議のテーマにそったパネルディスカッションとはほどとなく、それぞれのパネラーの漁業活動の紹介にのみ終始した全体討議であった。

※ 現地研修：枕崎市内水産加工施設

## 6. 所 感

全体討議について述べたように、テーマが漁業士研究会とかけはなれたテーマ設定になっているため、パネラー（漁業士）とフロアーとの意見交換が積極的でなく、講演者に対する質疑応答に終始した感がいなめない。

フロアーから、漁業士活動、役割等についての質問に対し、十分議論がされず、参加者から不満の声もあった。今後は、全体討議の持ち方、テーマ設定等検討すべきではないか。12月26日現在提出された青年漁業士の感想は別紙のとおりである。

（以下、青年漁業士の感想文の抜粋）

漁業士としての皆さん、

（左から） 部長、副部長、理事、青年漁業士、

青年漁業士、指導漁業士、指導農業士、

（右から） 青年漁業士、指導漁業士、指導農業士、

青年漁業士、指導漁業士、指導農業士、